

JABT Newsletter

発行所 日本行動療法学会 〒730
 広島市中区東千田町1丁目1-89
 広島大学総合科学部人間行動研究室内
 Tel. 082-241-1221 内線 683

発行責任者 内山喜久雄
 編集責任者 梅津 耕作

日本行動療法学会第9回大会報告

さる10月29、30日、筑波大学において開催された第9回大会は、参加者105名で盛会のうちに終了することができました。多くの会員の皆様の参加と、演題発表者に感謝いたします。

発表演題は、自閉症、神経症（食行動など）、小児喘息、登校拒否、夜尿を対象に、方法論的にはオペラント条件づけ、モデリング、バイオフィードバック、セルフコントロール、拮抗条件付、認知的行動療法などによる報告が29題でした。

また、シンポジウムでは「行動療法とセルフコントロール」のテーマで、心身医学（青木先生）、精神医学（高石先生）、心理学（原野先生）の各領域からの提案があり、埼玉大学の茨木先生が指定討論者となりました。フロアからの発言も多く盛りあがった討議となりました。行動療法が認知的な要素を取り込んでいくとして

いる近年の流れのなかで、今回のセルフコントロールというテーマは、時期を得たものでした。特に、セルフという概念について、どのように捉えるかという点での議論が印象的だった。今後の認知的行動療法の発展において、今回のシンポジウムにおける議論がさらに積み重ねられることが必要であるとの印象をもった。

筑波大学 内山教授による会長講演は、教授の長年に亘る行動療法に関する研究をTrophotropic shift への道としてまとめ、さまざまな行動療法における諸技法をergotropic stateのtrophotropic shiftをねらうものとして位置づけられました。こうした観点から行動療法を位置づけられたことは、たいへん意義あることでした。特別講演は、筑波大学 佐々木雄二助教授が最近の自律訓練法の動向について講演された。

会則および細則改正される

日昭和58年10月29日の総会で会則および細則の改定案が提案され承認されました。

主な改正点は、(1)事務局の移転、(2)会費の値上げ、(3)入会金4,000円の新設などです。

以下に改正条項を記載しますのでごらんください。

〔会則改正〕

第2条（事務局）本会の事務局は当分の間、広島大学総合科学部 人間行動研究室

（〒730 広島市中区東千田町1丁目1-89

電話 082-241-1221 内線 683

振替 広島3-21155 番）に置く。

第11条（役員任期）役員任期はすべて3年とする。ただし、重任をさまたげない。

第15条（会費）正会員の会費は当分の間年額4,000円とし、毎年3月末までに、次年度の会費を納入する。

第16条（入会金）本会への入会金は当分の間4,000円と

し、入会時に該当年度会費と共に納入する。

第17条（会計年度）本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日終る。

第18条（会計報告）決算報告および予算案は会務総会の承認を得なければならない。

第19条（会則改正）本会則の改正は会務総会に出席した正会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

付 則（追加）

5.本会則改正は昭和58年10月31日から効力を発生する。

〔細則改正〕

第11条 日本行動療法学会機関誌「行動療法研究」編集のために編集委員会を置く。編集委員長は常任理事の互選による。

第13条 編集委員会は編集委員の中から若干名の常任編集委員をえらび、編集の事務を遂行させる。常任編集委員は当分の間常任理事がこれにあたる。

「日本行動療法学会内山記念賞」制定される

研究委員会委員長 小林重雄

昭和58年10月29日の会務総会において、「日本行動療法学会内山記念賞」に関する内規が承認されました。

この内規は会員の臨床・研究活動がより一層活発化することを期待し制定されたものであります。そして、内山喜久雄氏におかれては長年にわたって理事長としてお骨折り頂き、更にこの内規の制定にあたって基金を提供していただいたことに感謝の意を込めて、お名前を頂き「内山記念賞」と命名することになりました。

日本行動療法学会内山記念賞に関する内規

昭和58年10月29日制定

1. 日本行動療法学会の会員で行動療法の研究において卓越した業績をあげた者に対し賞状および記念品を贈与する。
2. 学会賞の受賞者の選考のため、日本行動療法学会内山記念賞選考委員会を設ける。

3. 選考委員はつぎの者で組織する。

- (1)理事長
- (2)常任理事
- (3)「行動療法研究」編集委員
- (4)常任理事会が指名する者若干名
各委員の任期は3年間とする。

4. 受賞者は原則として同一年度に1名とする。

5. 選考基準および選考方法は別に定める細則による。

細則については審議中ですが、原則として当学会の機関誌である「行動療法研究」に発表された論文であること、そして発表者が45歳未満であることなどが盛り込まれる予定であります。とくに若手の研究者の積極的な機関誌への投稿が期待されています。

学会事務局が広島大学へ

これまで日本行動療法学会の事務局は筑波大学心障学系におかれていましたが、58年12月1日から広島大学に移転しました。10年にわたってお世話いただいた筑波大学の小林重雄教授やスタッフの方々にお礼を申し上げます。

今後は、新入会申込み、住所変更届、会費納入などは下記の事務局へお願いします。

〒730 広島市中区東千田町1丁目1-89
広島大学総合科学部人間行動研究室
日本行動療法学会事務局
電話 082(241)1221 内線 683, 682
振替口座 広島 3-21155
(主担当者: 根建金男)

会費の納入について

昭和58年10月29日の会務総会で年度会費が3500円から4,000円へ値上げすることが承認されました。学会の活動を継続するための最小限の値上げですのでご了承をお願いします。

つきましては、まだ58年度会費を未納の方は4,000円を納入ください。

なお、すでに58年度会費を支払済みの方は、59年度会費を納入されるとき500円を加え、4,500円を納入ください。(事務局)

昭和59年度大会は広島で 10月6日～7日に開催

第10回日本行動療法学会は広島大学が当番校となり、昭和59年10月6日(土)～7日(日)に開催することになりました。当番校としては第10回という記念すべき大会でもあり常任理事会とも協議のうえでプログラムを決めたいと考えております。

学会員の皆さん方の積極的な発表やご参加をお願いします。第1号通信は2月におとどけする予定です。

(広島大学)

昭和58年～60年度役員決まる

58年3月に理事の選挙が行われましたが、その後理事の互選により理事長、常任理事が選出されました。新役員名と業務分担は次の通りです。

理事長	内山喜久雄(筑波大学)
常任理事(編集委員会委員長)	石川 中(東京大学)
〃(編集委員会副委員長、広報委員会委員長)	梅津耕作(精神医学研)
〃(研究委員会委員長)	小林重雄(筑波大学)
〃(渉外委員会委員長)	赤木稔(防衛医学大学)
〃(研究委員会副委員長)	久野能弘(兵庫医大)
〃(事務局長)	上里一郎(広島大学)

「行動療法研究」編集委員決まる

58年10月29日に開催された理事会で行動療法研究の編集委員が承認されました。新編集委員は次のとおりです。行動療法研究へ投稿を希望の会員は編集委員とご相談いただくか、直接、東京都文京区小日向1-4-8 岩崎学術出版社「行動療法研究」係へ送付ください。執筆規定をよく読み積極的な投稿をお願いします。

委員長 石川 中（東京大）*
副委員長 梅津 耕作（精神医学研究所）*
赤木 稔（防衛医大）* 上里 一郎（広島大）*
東 正（大分大） 石津 宏（琉球大）
内田 安信（東京医大） 内山 喜久雄（筑波大）*
片岡 義信（福島大） 久野 能弘（兵庫医大）*
小林 重雄（筑波大）* 杉山 善朗（札幌医大）
高石 昇（高石クリニック） 武田 健（関西学院大）
田中富士夫（金沢大） 原野 広太郎（筑波大）
山上 敏子（九州大）

1. 任期 58.4～61.3 2. *印は常任編集委員
（3年間）

第8回行動療法研修会の予告

恒例の研修会が、学会前日の59年10月5日（金）に次の要領で開催されることになりました。

積極的なご参加をお待ちしています。

日時：59年10月5日（金） 9:00～17:00

会場：広島市中区上八丁堀8-28

・ 新八丁堀会館（予定）

テーマ：「重度心身障害児の行動形成」

講師：大分大学教授 東 正氏

国立特殊教育総合
研究所・研究室長 大友 昇氏

会費：8,000円（資料集を含む）

申込〆切：昭和59年8月31日

当番校：〒730 広島市中区東千田町1丁目

広島大学総合科学部人間行動研究室
研修会係

世界行動療法学会に参加して

赤木 稔

読者諸兄姉も御承知の如く、昭和53年もおし詰まって、12月8日から11日まで世界行動療法学会が米国行動療法学会（AABT）と併催という形式で開催された。1980年イスラエルのエルサレム市で開かれて今回が第2回に当たるが、今後は5年毎という打合せがなされており、次回はバーンズ博士が会長で英国が予定されている。申し遅れたが会場は首都ワシントンで、シェラトンホテルであった。

日本からは内山理事長、阪大・高石、九大・山上などの諸先生方が約10名程参加された。発表はいずれもポスターセッションであったが、内山先生は“潜在モデリングにおける主張反応の代理強化の影響”という主題であった。山上先生のグループは“精神障害にみられる強迫症状の特徴”。高石先生は“抗不安反応としての自律訓練法と漸進的弛緩法との比較研究、三菱中央研究所の大須賀さんのグループは、“汎用バイオフィードバック装置の開発”、筆者は“小児チック症のバイオフィードバック療法”。以上の5題であった。いずれの発表もはるばる日本から提出された研究ということで、一般の関心はかなり強かったようであった。筆者なども用意したコピーはたちまちの内になくなって、帰国してから改めて送付する約束を何人かの人とした程であった。

大会そのものは極めて麗大であって、とても筆者の活動範囲では完全に紹介することは不可能である。前にも御報告したように招待講演としてはスキナー、アイゼンク、ヘーレイの3大家が選ばれていた。筆者はその内で、スキナー教授の“未来を深刻に憂う”という主題の講演を拝聴した。主会場は恐らく2千人の収容を超えられたと思われたが、会期第2日の正午過ぎということもあってか、場内は聴衆で溢れる程であった。スキナー教授は有名な“ウォールデン2”の著者でもあり、理想郷建設と行動論の有為性をユーモアを混えながら説かれて、老大家尚健在なりの感銘を強く与えたのであった。最後に盛大でしかも鳴り止まない満堂の拍手は、今後の行動科学に対する一般の期待をも反映しているように思われた。

大会は第1日は基礎コースの講習会42、さらに各分野の講習会が14程組まれており、大会第2日からはワークショップ41という多彩さである。研究発表自体はシンポジウム、パネルディスカッション、ポスターセッションの3者からなっていた。シンポジウムは肥満、小児非行、認知的薬物療法、不安への認知療法、老人の治療、糖尿病、高血圧症など約20で、これらの主題からも伺われるように広義行動療法、又は行動医学への傾斜が強いと受

けとられた。

ポスターセッションは所要時間45分、全部で11回あり、総発表は500前後と概算された。その他にSIG(special interest group)の会合があり、主題別にみると肥満症、行動医学、老人医学、潜在条件づけなど10余りが挙げられる。又大会第2日の夕方、カクテルパーティと併催でのポスターセッションも行なわれた。

若干私的なことにもなるが、今回の旅程は筆者も、内山、山上先生グループも出発便に故障が生じて一日遅れになるなど、必ずしも順調な行程ではなかった。大会最終日に国際委員会が開かれたが、その通知がおそかったのでスケジュールの都合もあり、やむを得ず内山、高石両先生にお願いしてサンフランシスコを訪れた。同地に

3泊して、先ず旧知のバイオフィードバック研究の権威として知られている加州大学ラングレイポーター研究所カミヤ教授と面会した。カミヤ博士は最近はNASAからの研究を委嘱されており、宇宙酔のバイオフィードバックによる予防、治療を取り上げているとのことであった。特に胃液酸度のバイオフィードバックが効果的であるという興味深い話を伺った。

同市のバイオフィードバック研究所のあり方にも興味があったので、所長フーラー博士とも面会した。バイオフィードバック療法を中心として、総合的に行動医学的臨床を行っており、出版、教育も取り扱っており、その経営には示唆されるどころが多かった。

(S.58. 12. 21)

第9回日本行動療法学会 会計報告

1. 研修会初級コース

収入	452,500	
会費(10,000×41)		410,000
懇親会		42,500
支出	451,653	
講師関係(謝礼、交通費)		185,000
宿泊費		36,720
食事等		10,310
テキスト作成費		45,410
会場費		25,000
懇親会		75,000
バイト代		20,000
事務雑費(郵送費等)		22,713
コピー代		22,500
修了証印刷代		9,000
残高		847

2. 研修会中級コース

収入	405,000	
会費(15,000×26)		390,000
懇親会(2,500×6)		15,000
支出	374,865	
講師関係 謝礼(30,000×4)		120,000
宿泊費、食事等		12,330
テキスト作成費		99,600
会場費		50,000
懇親会(2,500×15)		37,500
事務雑費		3,935
コピー代		30,400
修了証印刷代		9,000
通信費		31,000
残高		11,235

3. 大会

収入	875,500	
会費		正会員 4,000×85=340,000
臨時会員		6,000×15= 90,000
学生会員		2,500×5= 12,500
プログラム代割引		5,000×3= 15,000
(プログラム代割引)		
広告代		205,000
プログラム(1部)		1,000
懇親会		3,500×53=185,500
弁当代		500×53= 26,500
支出	872,218	
会場費		41,600
大会プログラム		199,800
謝礼		30,000
懇親会		192,500
弁当代(会員)		26,500
(スタッフ)		48,500
慰労費		100,000
雑費(文具、運送費、お茶代等)		62,998
コピー代		14,030
往復ハガキ印刷代		40,000
通信費		103,090
封筒印刷代		13,200
残高		3,282

4. 合計残高 15,364

年度会費の納入がなければ機関誌の発送をいたしません。期日までに納入ください。